

津和野川復旧事業など7件

しまね景観賞

県内の魅力ある景観を創出する建造物や街並みを顕彰する「しまね景観賞」の表彰式が8日、松江市殿町のサンラボ一むらくもであり、優秀賞に選ばれた津和野川河川災害復旧助成事業、名賀川工区など7件が表彰された。

景観賞は県が主催し、24回目。土木施設、公共建築物など5部門に計109件の応募があった。今回は大賞の受賞はなかった。

津和野川の復旧事業は2013年7月の豪雨被害に伴う河川の護岸工事で、周辺の景観に配慮した赤や白の自然石を採用。被災前の美しい自然に違和感なく溶け込んでいる点が高く評価された。

工事を担当した野村組(益田市)の野村喜代志社長(70)は「復興の応援ができてうれしく思う。今後も地域の役に立てるような仕事をしたい」と話した。

(平井優香)

このほかの受賞は次の通り。

【優秀賞】海士町立福井小学校校舎(海士町)、松江城近くの道路標識(松江市)、浜山保育園(出雲市)
 【奨励賞】八雲ゆう遊こいのぼり(松江市)、小泉八雲記念館(同)、砂田川ふるさと砂防事業(邑南町)

しまね景観賞を受賞した事業主体者や施工者ら



平成28年(2016年)3月9日(水曜日)

島根日日新聞

(第三種郵便物認可)

油絵が見守る園生活へ

金本さんは、元美術教師で、益田市在住。これまで描きためた絵を画集にまとめたのを機に、所蔵していた作品を整理。日展に仏像を題材に出展していたこともあり、妙勝寺の

住職でもある古川園長に寄贈の話が舞い込み、ちょうど新園舎に展示スペースを設ける予定だったことから寄贈が決まった。絵は

昨年12月に新築移転した出雲市浜町の浜山保育園(古川泰道園長)に、出雲市出身の画家、金本裕行(ゆうこう)さん(77)の油絵9点が寄贈され、新しい園舎での園児たちの生活を彩っていく。

経た石仏の重厚で慈しみにあふれた表情とたえずまいが印象的な作品。現在展示されているのは4点で、折を見て掛けかえる予定という。

園児たちは、園生活の一場面に絵のある風景を日常のものとして過ごしていく。古川園長は「園児たちの身近にいつも本物があることは、情操教育にもつながっていると思う。郷土作家の作品であることもうれしく」と話していた。

出雲・浜山保育園

金本裕行さんが寄贈

昨年12月に新築移転した出雲市浜町の浜山保育園(古川泰道園長)に、出雲市出身の画家、金本裕行(ゆうこう)さん(77)の油絵9点が寄贈され、新しい園舎での園児たちの生活を彩っていく。



廊下に掛けられた絵と園児たち=4日、浜山保育園

園生活の一場面に絵のある風景を日常のものとして過ごしていく。古川園長は「園児たちの身近にいつも本物があることは、情操教育にもつながっていると思う。郷土作家の作品であることもうれしく」と話していた。